

Ver. 1.2.1/IRV2013.7.15 アップデート

2014年1月 日本ラート協会

IRVシルホイール競技採点規則(Ver.1.2.1)



June 2013 by Andre St Jean, Eric Deschenes and Paul Perreault
2013年7月 IRV 承認

目次

A： 競技内容

B： 審判員の責務

C： 競技の一般原則

A： 競技内容

A1. 規定演技

A2. 自由演技

予選は、規定演技と自由演技で競われる。その両方の合計点の高い選手が、決勝に進む。

決勝は、自由演技のみ行われる。

参考：2013年世界選手権では、上位5名が決勝に進出。

A1. 規定演技

A1.1 指定された難度を満たさなければならない。

A1.2 演技時間は1分50秒～2分10秒。

A1.3 演技は難度審判と実施審判によって採点される。芸術性は、採点されない。

A1.4 選手はラートから降りることなく演技を行い、降りた場合には減点される。

A1.5 選手は各種目の始まる前までに書面にて演技構成を提出しなくてはならない。

また、選手は提出された演技を正確に行わなくてはならない。異なる場合、減点となる。

A1.6 選手は演技終了時に終了のポーズをしなければならない。

A1.7 運動と運動の間に、ベーシックステップス3回転、小斜転3回転、大斜転2回転を入れることができる。それらは、難度点としてカウントされないが実施減点は課される。

A1.8 選手は、以下の3つの構成グループから、少なくとも2運動を含む、合計10運動を実施しなくてはならない。

ピボット 2運動

大斜転 2運動

小斜転 2運動

必要難度については、大会決定時に発表する。

参考：2013年世界選手権 必要難度 3xB, 5xC, 2xD

採点内容

1. 4名の実施審判が10点からの減点方式で採点する。審判員の出した最高得点と最低得点を切り捨て、残った中間の2つの得点を合計する。20点が最高得点となる。

2. 2名の難度審判が、高難度の運動2つを難度点として算出する。最高得点は4点である。必要な運動が行われているかを確認する。

3. 実施点20点に難度点4点を加え、最高得点は24点である。

A2. 自由演技

A2.1 予選と決勝で実施される。

A2.2 演技時間は2分30秒～3分。

A2.3 演技は芸術審判、難度審判、実施審判により採点される。

A2.4 選手は難度表よりA、B、C、Dの運動を選択することができる。

A2.5 選手は各種目の始まる前までに書面にて演技構成を提出しなくてはならない。

しかし、選手は提出した運動と異なる演技をしても規定演技とは違い、減点にならない。

A2.6 選手は、演技の演出、構成のため、ラートの外に合計30秒以内であれば降りてもかまわない。

A2.7 選手は運動、音楽、衣装、振付等を選択し決めることができる。またそれらは採点の対象となる。

A2.8 歌詞の入った音楽も選択可能であるが、攻撃的な歌詞を含むものは許されない。

A2.9 選手はきれいな実施を行うことに焦点をおき、芸術性と難度のバランスを保ち演技しなければならない。

A2.10 決勝においては、難度レベルの調整、芸術に関わる衣装、音楽の変更など、予選の演技より選手にとって有益であれば、それらを変更することが許される。

A2.11 選手は以下の3つの構成グループから少なくとも1運動を含む、12運動を実施しなくてはならない。運動数の上限はない。

ピポット 1運動

大斜転 1運動

小斜転 1運動

採点内容

1. 4名の芸術審判が各10点満点で採点する。審判員の出した最高得点と最低得点を切り捨て、残った中間の2つの得点を合計する。最高得点は20点である。

2. 4名の実施審判が10点満点で採点する。審判員の出した最高得点と最低得点を切り捨て、残る中間の2つの得点を合計する。最高得点は20点である。

3. 2名の難度審判が12運動中より高難度の10運動を難度点として算出する。最高得点は20点である。また、必要な運動が行われているかを確認する。

4. 1名の主審をおく。

5. 芸術点20点、実施点20点、難度点20点、最高得点は60点である。

B：審判員の責務

B 1 . 主審

B 2 . 実施審判

B 3 . 芸術審判

B 4 . 難度審判

B 5 . 得点差の許容範囲

B 1 . 主審

- ・時間の管理。
- ・演技全体の長さの確認。
- ・ラートから降りている時間の確認と計算。
- ・最終得点の計算とそのアナウンス。
- ・選手が安全エリアを離れた場合、演技を中断させる。
- ・選手が競技エリアから出た場合、審判員に知らせる。
- ・審判の点数に、許容を越えた開きがある場合、協議する。
- ・規定演技において、3回の大減点があった場合、演技を中止させる。
- ・大減点を判断し、各審判に伝える。

B 2 . 実施審判(4名)

以下の基準によって採点する。

- ・運動の完成度。
- ・運動の質。
- ・巧みさ。
- ・姿勢。
- ・床に触れる(減点として)。
- ・落下(大減点)。
- ・競技エリアを出る(小減点)。

技術的な欠点に対して減点を行い、運動が完全に行われたかどうかで減点はしない。

例えば、規定演技で3回転する所を2回転しか行わなかったとき、その2回転が完成度の高かった場合は、減点を行わない。難度審判が難度として数えるかどうかを決める。芸術に関しても同様であり、選手が音楽に合っていないなくても減点を行わない。

B 3 . 芸術審判(4名)

音楽、衣装、ラート、選手のラートの中での動き、外での動きの調和性。

ダイナミックな動きや、音楽のリズムとテンポに、選手が合致しているかどうか。

振付と表現が、音楽の特徴、と合っているかどうか。

新しい運動や、運動の組み合わせによる独創性。

演技と運動の芸術性 (aesthetic) 。

これらをもとに、以下の基準によって採点する。

音楽性(2点)

- ・音楽に合っている。
- ・音楽と演技の趣旨(意図) との関係。

- ・音楽の選択。

演出(2点)

- ・表現。
- ・存在感。
- ・個性(キャラクター)を保つ。

動きの質(2点)

- ・表現の安定感。(Ease of execution)
- ・細部への気配り。

つなぎや移行(2点)

- ・移行の流れ。
- ・流動性。
- ・演技のまとまり。(Placement in the routine)

全体の評価(2点)

- ・音楽、衣装、演技の趣旨(意図)の関係。
- ・技術性と芸術性のバランス。
- ・感動を与える演技。

B 4 . 難度審判(2名)

以下の基準によって採点する。

- ・各運動の特定の技術的な基準が満たされたかどうかを判断する。
- ・A、B、C、Dの難度を数える。
- ・選手が提出した構成の運動が行われたかを確認する。
- ・規定の運動が演技の中に行われたかを確認する。
- ・運動が成立されたかを決める。
- ・規定演技において高難度の2運動を選択し、難度点を算出する。
- ・自由演技において高難度の10運動を決め、難度点を算出する。

B5. 得点差の許容範囲

2 つの中間点の得点差が以下の基準を超えた場合、主審は該当する審判員を招集し、採点調整を行わなければならない。

0.3 点：最終得点が10 点～9.0 点

0.8 点：最終得点が8.95 点～7.5 点

1.0 点：最終得点が7.45 点～5.0 点

1.5 点：最終得点が4.95 点～0.0 点

C：一般原則

競技としてのモノ・ラートは始まったばかりであり、全てのことに順応するにはまだ時間

がかかる。今後詳細について順次対応して発表していく。

- C 1. 競技エリアと安全エリア。
- C 2. 運動の承認。
- C 3. 運動の難度。
- C 4. 新しい運動。
- C 5. モノ・ラートの器具。
- C 6. ドレスコード
- C 7. I R Vからの一般規則の引用。

C 1 . 競技エリアと安全エリア

競技エリアは13mx13m。安全エリアは競技エリアの1.5m外側にあり16mx16m。

もし選手が競技エリアから踏み出た場合と、ラートが出た場合は小減点になる。安全エリアから出た場合は中減点になり、選手は競技エリアに戻って演技を再開する。

C 2 . 運動の承認

認可している運動は難度表に記載されている。規定演技では難度表に記載された運動を行わなければならない。記載されていない運動はカウントされない。自由演技では選手は希望する運動を行うことができ、技術性と芸術性を採点される。しかし、難度点を得るためには難度表に記載されている運動を行わなければならない。

規定演技、自由演技ともに、難度表に記載されている要素を満たすことができなければ難度点はカウントされない。しかし、自由演技において、その運動が独創的であれば、音楽点の採点の対象となる。

難度点を得るには定められた回転数を行わなければならない。

Basic steps, handspring, coin spins ; 3~5回転

Spirals, In Spins, half twist, half turns ; 2回転

All full turns and twists ; 1回転

C 3 . 難度点の構成

難度点は技術に応じA、B、C、D難度に分けられる。

難度点の区分は以下に評価される。

A=基本 (0.5点)

B=初中級 (1.0点)

C=中級 (1.5点)

D=上級 (2.0点)

運動と難度は、難度表を参照。

C 4 . 新しい運動

日本ラート協会

新しい運動はIRVモノ・ラート審判委員会が難度を決定してから、1運動として演技に入れることができる。B、C、D難度として定義されていない全ての運動はA難度として採点される。

新しい運動は世界選手権の前年の12月31日までにIRVにて発表される。

C 5 .モノ・ラートの器具

基本的にモノ・ラートは持参する。他の選手のモノ・ラートを使っても良いが、その際は、選手同士で話し合って決める。サイズ、重量、材質に関する規定はない。

C 6 .ドレスコード

選手は、演技によって自由に衣裳を選ぶことが出来るが、自由演技の芸術点の採点の対象となる。（規定演技の衣裳は採点の対象とならない。）

C 7 .一般競技規則はI R V開催の世界選手権の規則から引用する。

ホームページwww.rhoenrad.com のGeneral Regulations からIRVの文書の一般規則の全てを確認すること。

C7.1演技の開始と中断後の再開

C7.2減点

C 7 . 1

演技の開始と中断後の再開

規定演技

主審の合図の後、演技を開始する。一度ラートに乗り動かしたら、選手は演技を終了するまで、ラートから降りてはいけない。

自由演技

主審の合図の後、音楽開始から演技が始まる。

中断後の演技の再開

規定演技

安全エリアから出るまたは、落下により中断の場合、選手はラートから降りて再開の位置に移動できる。

演技再開する前に、コーチは手伝い、選手と会話することができる。選手は30秒以内に演技を再開しなければならない。

主審は時間を確認し、演技再開までの時間を選手に知らせる義務がある。再開時に演技で

の回転速度に戻るまで余剰回転を行ってもよい。審判はこの間（完全な運動になるまで）採点しない。

自由演技

演技の中断時に音楽は停止しない。選手は演技を続行しなければならない。

C 7 . 2減点

小減点

[0.1~0.2] 1運動で最大0.5点の減点。

小減点の例：

- ◇頭、手、腕、腰、脚、足などの姿勢。
- ◇競技エリアから出る。
- ◇正しくない握る位置、立ち位置、移行位置。
- ◇わずかな停止。（自由演技での意図的な停止以外で）
- ◇演技の終了時のバランスの欠如。
- ◇演技終了のポーズの欠如。[0.2]

中減点

[固定減点:0.5] 各1運動につき1つまで。

中減点をする場合、小減点は加算されない。

中減点の例：

- ◇著しい停止。（5秒以上）（自由演技での意図的なポーズ以外で）
- ◇落下、転倒を避けるために、手や足で支える。
- ◇安全エリアから出る。この場合選手は演技を中断し、競技エリアに戻らなければならない。
- ◇演技終了時の落下やラートのコントロールの欠如。
- ◇必要運動、および難度の欠如。
- ◇規定演技、自由演技ともに、定められた時間枠を越えた演技時間に対し、5秒ごとに減点が追加される。
- 例：10秒超過の場合。1.0の減点。
- ◇自由演技において、合計で、30秒以上ラートから降りた場合、超過時間5秒ごとに減点が追加される。
- 例：合計で37秒間、ラートから降りた場合。1.0の減点。

大減点

主審によって大減点が与えられる。主審は関係する審判（実施審判と芸術審判、またはどちらかの審判）に0.8点減点するように伝える。落下であれば、実施点と芸術点に影響し、音楽のタイミングがずれていれば、芸術点だけに影響し減点される。

[固定減点:0.8] 各1運動につき1つまで。
大減点をした場合は小減点または中減点は加算しない。
規定演技において、3回の大減点があった場合、演技を中止しなければならない。

自由演技において、3回の大減点があった場合、審判は採点をそこで中止するが、演技は中止せず、最後まで演じる。

大減点の例：

- ◇コーチの補助。
- ◇10秒以上のタイミングのずれ。
- ◇落下。
- ◇回転が中断され、明らかに床に立つ。（自由演技で意図的なもの以外）

音楽に関する減点

小減点

- 以下の減点は、運動ごとに減点される。
- 音楽のリズムに演技が反映されていない。[0.1]
音楽のアクセントやクライマックスに対する演技の欠如。
- ◇1秒未満。[0.1]
 - ◇1秒以上。[0.2]
 - ◇アクセントとクライマックスの無視。[0.2]
 - ◇明らかに、最後の部分をカットしたと分かる音楽。[最大0.2]
 - ◇音楽の編集の質（ノイズなど）[最大0.5]

中減点

- ◇音楽に対する選手の表現の欠如。[最大0.5]
- ◇選手の表現が、音楽のキャラクターに合っていない。[最大0.5]
- ◇最後のポーズと音楽の終わりが、5秒以上（10秒以内）ずれている。[0.5]

BGMとしての使用

BGMとは、演技の背景として、または、個性（キャラクター）やテンポに注意を払わず、適正な体操要素や表現も行われていない場合のことを言う。

- 2から3運動[0.2]
- 演技の約半分[1.0]
- 演技の全て[2.0]

演技の途中終了

自由演技において、何らかの理由で、演技が途中で終了してしまった場合、芸術審判は、演技が行われた長さに対して、以下の減点を行う。

演技時間 2分以上 [0.5]

1分以上～2分未満[1.0]

1分未満[1.5]